

焼山の植物相

高温で強酸性の焼山火口は荒野のような生育環境です。しかし、この過酷な条件下でも、強酸性の環境に適応する植物は徐々に定着します。このような環境で最初に根付くのは、火口の斜面周辺に環状に生えるコメススキです。傾斜がなだらかな場所ではスゲが生え始めます。雪解けが遅く水分が多い斜面では、イワカガミをはじめとする植物が群生します。その周りには、ガンコウラン、イソツツジ、ハクサンシャクナゲなどの強酸性の環境に適応した低木が生い茂ります。

山頂地域には、直径約 1 キロメートルの火口と、鬼ヶ城と呼ばれるごつごつした溶岩ドームがあります。およそ 1 キロメートル東にあるのはもうせん峠で、野花の原が風景を覆っています。ガンコウラン、コケモモ、ミネズオウ、この地域で見られる植物のほんの一部です。

火山ガスの噴気孔が数多くある玉川温泉や後生掛のような山麓周辺の地域では、6 月になると、白いイソツツジの花を皮切りに、希少な種の植物の開花期が始まります。硫黄を噴出する噴気孔周辺のスポットでは、温泉から湧き出る強酸性の湯が植物の生育が困難な環境を作り出しますが、ほんの少し離れたところではイオウゴケ、ヤマタヌキラン、ガンコウラン、シラタマノキの群落が茂っています。